

興道会だより

米沢仏教興道会 〒992-1443 米沢市大字笹野170番地 花の里内 TEL0238-38-3328 FAX0238-38-2198 発行責任者/玉木龍晃



興道北部保育園 石久地蔵

平成十八年を迎え、皆様方に謹んでお慶びを申し上げます。

旧年中は格別のご配慮を賜り、心よりお礼申し上げます。本年も変わらぬご支援をお願い申し上げます。

この冬は暖冬という予想でしたが、はやばやと寒波と大雪に見舞われ、雪には慣れているはずの米沢が、思いがけない大雪にただただ驚いております。皆様のお宅でも大変なご苦労なことお察しいたしております。雪による事故も多く発生し、屋根の雪にうずもれた園児など、不幸な出来事があり、心を引き締めなければと思ったことでした。

十七年の漢字が(愛)と決まったようですが、忌まわしい事件もたてつづけにおきた年でもありました。今年こそは(愛)の字に適した年になつてもらいたいものです。

一日の計は朝にあり、一年の計は元旦にありとは昔からいわれていることですが、なにごとも始めが肝心で、日々の積み重ねが、一日の計、一年の計にのりますようお願い、十七年の漢字の(愛)という言葉が十八年の漢字にびたりと当てはまる一年でありますようにいひのります。



米沢仏教興道会 会長
玉木 龍晃



平成18年度 事業計画(案)

4月 正会員総会

■時間/17:00~

6月3日(土) 第82回 花まつり

■時間/14:00~ 於:伝国の杜

10月 秋季戦没者慰霊祭

12月初旬

歳末助け合い募金活動托鉢

平成19年

1月下旬 新年会

※上記の他、花まつり関係事業、検討諮問委員会、幹事会及び必要に応じて正会員会を開催。

平成17年度 事業報告

■とき/平成17年4月5日(火) ■時間/17:00~

正会員会総会 於:一つ待

■とき/平成17年6月11日(土) ■時間/14:00~

第81回花まつり 於:伝国の杜

■とき/平成17年9月30日(金)

正会員会 於:一つ待

内容:花まつり決算

■とき/平成17年10月26日(水)

秋季戦没者慰霊祭 於:日朝寺

■とき/平成17年11月23日(水)

歳末募金托鉢活動

■とき/平成18年2月1日(水) ■時間/18:00~

正会員新年顔合わせ会 於:東京第一ホテル米沢

■とき/平成18年3月1日(水)

機関紙「興道会だより」第4号発刊

※その他、花まつり関係事業、幹事会、編集委員会等を開催。



社会福祉法人
米沢仏教興道会 会計理事
平岡 芳孝



新聞のおくやみ欄を見ていると、葬儀会場がお寺や自宅になつてきている案内がとてもし少ない。特に冬場はその傾向が強くなる。ほとんどが〇×ホール、〇△ホールといった具合だ。

「お葬式はお寺でしなさい」と、ホール葬を禁じているお寺さんもあるようだが、駐車場の大きさや空調設備ではとてもホール葬にはかなわない。

確かに今年のような大雪だと、「お葬式はお寺でお願いします」はドキッとすると言葉ではある。喪主から、「ホールでしたいのですが」と言われるとホッとしたりするし、確かににお寺で葬儀をやるより全てにおいては楽ではある。

しかし、本当にそれでいいのか、との思いがあるのは私だけなのだろうか。

曹洞宗の葬儀は授戒が中心となる。菩提寺のご本尊様の前で、授戒という宗教儀礼を行えないことに無念さを感じないわけにはいかない。

また、忌中法要の中身を考えれば、「法事もホールでします」という申し出があった時、断る理由もない。お寺は不要です、と坊さん自身が自分の首を絞めないよう、しっかりとした信念を持って葬儀を行わなければならないのではないだろうか。

秋季戦没者慰霊祭

平成17年10月26日(水)
於:日朝寺



戦後六〇年余の歳月が流れ戦争を知らない世代が半数を超える今日、あまりにも自由で平和な時代に慣らされて、あの悲惨な激しい戦争の記憶は遠く忘れ去られようとしている。しかし私達遺族の心の痛みは決して消え去るものではなく、亡くなった肉親への想いは断ち難く、いつも心の中に生き続けている。

戦争はなぜ起きたのか、巷にいわれる侵略戦争は本当に真実なのか、私達の父や肉親は部の戦争指導者に踊らされて侵略戦争の片棒を担がされたのか、いやそうではない、決してそんなものではない。当時の日本の置かれた立場、国際的情勢、国民の風潮などをよく考えてみれば、一方的に戦争を仕掛けたものなどでは決してないことがわかる。マッカーサー元帥が米議会で「日本が米國と戦うに至ったのは安全保障のためだった」と証言しているのが全てを物語っている。日本が大東亜戦争に突入したのは止むに止まれぬ自衛のための戦争だったのだ。侵略戦争などでは決してない。日本を悪くしか考えない左翼、マスコミ等の独善的な自虐史観に惑わされてはならない。私達の父親や肉親は当時どんな思いで戦争に行き亡くなっていたのか。きつと後髪を引かれる思いながらも、日本を守るため最愛の家族を守るためにと純粋な思いで、故郷を後にしたに違いない。家族にあてた手紙や遺書には、その思いが書かれ、純粋な気持ちが伝わってくる。今日私達が平和で豊かな生活が出来るのは、私達の父や肉親が一身を投げうって必死に尽くされた尊い犠牲があったからこそであり、決してこのことを忘れてはならない。改めて心



米沢市遺族連合会会長
金 啓一郎

「戦没者慰霊祭によせて」

からの感謝と敬意を表して止まない。私達遺族はそのことを深く心に刻み、英霊の慰霊と顕彰を末永く継続していくことが、せめてもの恩返しと考え、心のよりどころだと思っている。

米沢仏教興道会では戦中戦後を通じ、私達の願いを快くお引受けいただき、六〇年近くにわたり追悼法要や慰霊祭を斉行いただいていることは誠に有難く、厚く御礼を申し上げます。

亡くなった英霊は佛として私達の身近な菩提寺に手厚く葬られ私達の心の中に生き続けているが、さらに霊は御祭神として靖国神社に合祀されており、私達を見守つていただいている。靖国神社には明治以来国難に殉じられた二百四拾六萬六十余柱が祀りされており、戦没者慰霊の中心的施設として年間六百万人もの人々が参拝している。国家の命令で国家に殉じた英霊を手厚く慰霊していくのは国家の義務であり、国家の最高責任者たる首相が慰霊の誠を捧げ、心から感謝と敬意を表し参拝するのは当然のことである。中国韓国が執拗に批難中傷を繰返し、国内の一部勢力もこれに呼応し反対運動を展開していることは誠に遺憾であり憤りを禁じ得ない。どうか一日も早く首相の靖国参拝が定着し当りまえのこととして継続されていくことを期待して止まない。また靖国神社に代る国立の追悼施設を造るべきだと中国韓国の主張に迎合し一部の心ない議員等が建設構想を押し進めていることは、英霊を冒瀆し、靖国神社の根柢を揺るがす問題であり、私達遺族の心情を逆撫でするこれらの構想は断じて許すわけにはいかない。無宗教の慰霊施設などあり得る筈がなく、誰もお参りに行かないであろう無駄な施設に多額の税金を使って造る必要がどこにあるのだろうか。心ある人々の強力な反対運動により速やかに撤回されることを願って止まない。どうか靖国神社が国内外の政治問題の渦中から開放され一日も早く、多くの人々が静かに祈りを捧げられる社として、すがすがしい静けさがとり戻されることを心から祈念して止まない。

第81回 花まつり

平成17年6月11日(土) 於:伝国の杜



第81回 花まつり実行委員長
窪 周明 師

